

令和元年度第1回学校評価自由記述の要望・意見への対応について

2019.10.16

1 学習について

(1) 授業について

- ・ 問題集や週末課題などの解答を渡さない、あるいは最終的なものしか渡さないのは、課題にしっかり取り組み、答えに至る過程を知りたい生徒からすると大変困る。(生徒)
- ・ 授業の仕方が担当の先生により差があると思う。(生徒)
- ・ 教科の先生の指導にばらつきがあって、テスト範囲のお知らせも遅い早いがあるので、最低限のことは足並みを揃えて欲しい。(保護者)
- ・ 進学を目指しているので良かったと思う。ただ、レベルアップしてほしい。(保護者)

授業は学校教育活動の根幹とも言えるものですので、授業改善には、全教員が取り組むべきもので、日常的には授業での生徒の反応などの観察、テスト等による理解度の把握、また、学校全体として互見授業の実施、個別には各教科の研修への参加等により、取り組んでいるところです。

授業は、年間の授業計画（シラバス）に基づいて進めているもので、複数教員で担当する科目については、進度や内容の確認を頻繁に行っているところです。

解答の渡し方については、教科によって、さらに単元や内容によっては、解答に至る経過について思考を深める狙いから、すべてを配付しない場合もあります。

授業の進め方については、授業の目標は同じでもそのアプローチの方法は授業担当者によって違うことはありますが、生徒の学力向上という目的は共通であり、それに向かうための指導にばらつきがあるのはよくありませんので、無くす努力を続けてまいります。

ご指摘いただいたご意見については、真摯に受け止め、今後も研修を重ね、なお一層の授業改善に取り組んでまいります。

(2) 課題について

- ・ 課題（宿題）は1、2年のうちは基礎を身に付けるのに良いが、3年生になってからの課題（宿題）は非効率的。(生徒)
- ・ 宿題で時間がなくなり、受験勉強の時間が少ししか確保できない。(生徒)

家庭学習については、自ら課題を見出し、解決していく生徒もいる一方で、「課題（宿題）があることで家庭学習時間を確保できている」と感じている生徒がいるのも事実です。

課題（宿題）は、授業の復習や予習、あるいは必要な家庭学習の量として課されるものであり、今年度は教科間で情報交換し、全体として多過ぎることのないよう調整をしています。

今後も、学年の実態や授業進捗の状況などをよりの確に見極め、課題を減らしても家庭学習時間が減らない、むしろ増えるくらいの手立てができればと思います。授業改善と連動させ検討いたします。

(3) その他

- ・ 考査の各教科テスト点の学年順位を知らせて欲しい。結果が良くても悪くてもモチベーションにつながるから。(生徒)

学びに対する意欲として、テストの点数を目標にすることは大変良いことです。ただ、各期末考査で実施される各教科のテストは、評価につながるものとして各々の問題が観点別になっており、テストの合計点で順位付けをするシステムになっていません。課題テストや模擬試験等を参考に意欲と力を向上させて下さい。

2 部活動について

(1) 活動日、活動時間について

- ・ 部活動終了時刻が遅くなり、帰宅時刻が遅くなってしまうことが多々ある。学習時間を阻害している。(生徒)
- ・ 部活が予定表ではOFFになっていても、ランニングだけあるとか。それはOFFではないのでは？あるなしのメリハリをつけて、はっきりさせて欲しい。(保護者)
- ・ 土日の部活は2時間くらいでいいのでは？他の部が終わっているのに、うちだけ終われない。顧問によって変わるのではなく、統一して欲しい。(保護者)
- ・ 部活動延長で終了時刻は19時のはずが明らかに遅いです。帰宅すると20時過ぎ、食事、入浴等すると宿題予習に追われ、睡眠時間が確保できていません。勉強第一だと思います。(保護者)
- ・ 部活の時間や日数に関して、ただ長く一杯やれば良いというのではなく、短時間で集中、メリハリをつけてほしいと思います。(保護者)

本校の通常の部活動時間は、16:10～18:40で、19:00完全下校となっています。

しかし、部活動終了後、完全下校時刻を過ぎても部室等に残っている生徒も見受けられます。決められた時間の中で活動すること、終了後は速やかに帰宅することを改めて確認したいと思います。

また、土日の活動等については、大会シーズンや実施形態など部によって特性が違いますので、一律にすることはできません。ただし、生徒に過度な負担がかからないよう、また生徒の意欲や自主性も尊重しながら、今後も適切に活動してまいります。

(2) 部活動全般について

- ・ 部活動における大会参加の時など、交通の便が悪いところの時は、バスなどチャーターして欲しい。親の送迎が結構負担です。選手でない生徒は無理に応援に参加させず、授業を優先させてほしい。(保護者)
- ・ 部活動の指導に疑問を感じる場合があります。子どもにアンケートを取るなどし、生徒、先生間で信頼関係を築き、悔いなく終われるように改善して欲しい。(保護者)

大会への参加は、ベンチ入りする生徒、大会参加登録している生徒を原則「選手」とし、公欠や補助等の対象としております。また、授業優先であることは、学校や高体連・高文連も認識は共通しているところです。

大会や練習試合会場への移動方法については、部の実情に応じて借り上げバスやレンタカーも活用しておりますが、経費や生徒の負担削減を考慮し、ご家庭のご協力をいただく場面もございます。ただし、ご家庭の事情も様々ですので、ご負担が大きいような場合は、部顧問にご相談ください。

部活動は、運動部・文化部の活動を通じて、スポーツや芸術文化等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものです。先輩や後輩、時にはOBOGなど、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒や教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、生徒の多様な学びの場として、また、部活動の様子を観察を通じた生徒の状況理解等、その教育的意義は高いものと認識しています。

その認識からも、生徒と指導に当たる部顧問やコーチとの人間関係・信頼関係は、とても重要であると考えておりますので、本校全体として、授業改善同様、部活動指導改善には今後も真剣に取り組んでまいります。

(3) 部の統廃合について

- ・ 廃部の問題は結局どうするのかがわからない。(生徒)
- ・ 今年度、活動再編は実施しないのでしょうか。昨年度は「今後も継続する」としていたと思います。(教職員)

部の統廃合については、昨年度、柔道部女子と英語部の部員募集停止を決め、今年度から実施していますが、来年度に向けて、今年度のうちに部員募集停止を検討すべき状況の部は無いものと捉えています。ただし、部員数の状況を見ながら、来年度に向けてルール作りの検討が必要と考えています。

3 学校行事について

- ・ 年に2日しかない体育祭の決まりが多すぎる。校外に出るわけでもないのに、2日間くらいやりたい髪型、おしゃれさせて欲しい。何を恐れて決まりをたくさん作っているのか。(生徒)
- ・ 体育祭の時は、ジャージ登校でいいのでは(部活動帰りも)。制服は頻りに洗濯できないので(型崩れ、1着しかないなど)

競技のルール(決まり)を遵守することで、その競技の試合は高度なものになります。スポーツマンシップに則った行動やプレーが周囲に感動や勇気を与えること、逆に、マナーの悪いプレーや応援が相手に不快感を与えることについては、世間で多く目にするところです。

多感で、明るい未来ある高校生の皆さんには、ぜひ、自らの行動、相手の行動を正しく真剣に楽しんでほしい。そのためのルール(決まり)です。生徒会のそんな想いを汲み、またそれを自分の未来へと考えを連続させて欲しいと思います。

登下校時の制服着用については、身なりを整えた行動をするという行動マナーの面と、地域の方々からの制服を着た高校生に対するご配慮に対する敬意の面から、これまでも一貫して取り組んでいるところですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

4 交通安全について

- ・ 自転車事故についてよく指摘を受けているが、実際、周りの大人たちの方が、圧倒的にマナーがなっていない。信号無視により私たちが危険にさらされる時もある。地域の方が守らないから生徒も気が緩むのではないか。ドライバーも不注意で、こちらが問題なく自転車を運転しているのに事故に遭いそうになる。(生徒)

正しい指摘だと思います。

子供も大人も、高校生も社会人も、ルールを遵守しマナーを向上させることで、事故は絶対に減ります。あるいは無くなります。事故は、相互の過失割合に違いはあれ、互いのルール違反か、マナー無視あるいは不注意によって起こります。

高校生のマナー正しい行動は、社会を明るく正しいものに導きます。志高生が率先してマナー正しい行動をすることで模範的な存在になり、この地域がより健全で明るいものになれば素晴らしいことです。

5 進路指導について

(1) 課外について

- ・ 課外は自由参加でも良い。自分の苦手な教科などはマンツーマンで教えてくれる塾に行きたい。苦手教科の課外授業がさっぱり理解できず解説を聞いてもわからない。よくわからないままの80分は時間ももったいない。応用問題なんて解けないレベルなのでセンター対策をする以前に基礎的な勉強をしないと大変なことになると思う。(生徒)
- ・ 入試で使わない教科の課外を受けなければならないのは無駄。納得できる理由を提示して欲しい。(生徒)
- ・ 土曜課外を希望制にして欲しい。(生徒)
- ・ 課外教科を選択制にして欲しい。(生徒)
- ・ もう少し課外授業があつてよいように思います。(保護者)
- ・ 昨年の長期休業中の課外で、涼しい所での授業が多いクラスと教室での授業がほとんどのクラスがあり差が激しかった。(生徒)
- ・ 夏期講習が始まり、今年も暑いようです。教室内が暑く、熱中症が心配です。せめて夏期講習期間は、生徒に保冷剤を首に巻き付けていいとか、学習中でも適切に水分補給していいとかを学校で推奨して欲しいと思います。(保護者)

- ・ 課外については、やらされている感が強いように思います。拘束時間が長く、効率が悪いような気がします。生徒が自主的に学習に取り組めるような雰囲気だと良いですね。先生方も生徒のことを思って課外をしてくださっているのだと思いますが、働き方改革し、少しでも負担を減らしていったほうが良いと思います。(保護者)
- ・ 夏場の課外、夏期講習時の服装として、半そで、ハーフパンツでお願いしたい。子どもたちがあまりの暑さで気が遠くなり、体調不良になりかねません。暑さ対策の早急な手配をお願いいたします。(保護者)
- ・ 課外日、時間が多く、通院する時間が取れないので、休みの日が欲しい。(保護者)

進路指導は生き方指導でもありますので、学校としても重要なものと認識しております。

課外については、授業での学習内容のうち受験に特化してはいますが、根本的には学力向上を図るものです。本校としては、学力のある生徒たち故、早くから受験科目を絞り課外の受講科目を減らすことは、生徒の総合的な学力向上のためには良いこととは捉えておりません。

また、塾や予備校での学習を否定するものではありませんが、教科担任あるいは学級担任は生徒の実態をよりの確に認識できていること、授業と課外の連動等も考慮し、全員課外を実施しているところです。

ただ、より個に応じた学習形態や内容が求められてもいるところですので、その方法については検討していきます。

夏の学習環境として普通教室に冷房施設が無いのは、特に真夏日や猛暑日には大変辛いところです。本校には大講義室や多目的教室など冷房設備のある特別教室がありますので、そこを有効に活用していますが、足りないのが現状で、普通教室に扇風機を配置するのが精一杯です。

なお、夏の一定期間は、生徒の服装は授業・課外とも半そで、ハーフパンツで可としています。

生徒の健康については十分留意しながら実施しますが、水分補給や、課外実施日数や時間帯について工夫が必要であると考えています。

(2) 小論文指導について

- ・ 小論文の学習(授業)を2年生(3~6ヶ月間)から行って欲しい。大学進学はもちろん、書く力及び読解力の向上が期待できるものと考えております。(保護者)

本校の小論文学習については、1年生の1~2月、2年生の10月~2月にかけて、ワークブック、小論文模試、小論文講演会、志望理由書模試を活用しながら行ってまいります。小論文学習を通じて、知識、思考力・表現力・判断力、学びに向かう力等の育成を目指します。

6 開かれた学校づくり

- ・ あまりにも連絡の手紙が少ない。宿題も少ない。自立を促しているのかもしれませんが、放置しすぎではないか?全員が同じではないと思います。
- ・ 小、中学校に比べると、圧倒的に学校からの通信が少ないので、正直、学校の情報が伝わってこない。いくら高校といえども、最低限の連絡は通信かメールで伝えてほしいと思う。
- ・ 学校のホームページの更新をして欲しいです。生徒たちの活躍をどんどん紹介して欲しいです。

学校の情報をご家庭にお届けする手段としては、「学年通信」(10/4現在で1学年第6号、2学年第6号、3学年第3号発行)、「PTA会報」(年間2回発行)、PTA総会及び学級懇談、学年PTA及び学級懇談、「学校メール配信」による連絡、「シルバーリーフの風」(10/4現在第3号発行)等があります。また、学校ホームページも数多くはないですが、適宜掲載しております。

7 その他

- ・ 洋式トイレを増やしてほしい。(保護者)

洋式トイレの増設は、県の予算配分によるので学校の判断ではできませんが、要望を出していきます。

- ・ 天候が悪くて休校にするかしないかの判断は、当日の朝ではなく、前日の夜までに判断して欲しい。午前休校などでも良いのでは。(保護者)

天候が大きく荒れること不順が予想されるような場合は、できるだけ早く判断し、「学校メール配信」により連絡いたします。

今年度は、幸い休校の措置はありませんでしたが、緊急連絡については、個人情報保護の観点から学級連絡網を作成できませんので、「学校メール配信」によることをご了承下さい。

- ・ 野球応援を自由参加にして欲しい。強制するものではないと思います。(保護者)

野球応援は、応援委員会のリードにより、バトン部(チアリーダー)・吹奏楽部の力も借りて、その試合に学年全体あるいは学校全体で声援を送ることで、学校全体の志気を高めていこうということから、学年あるいは学校行事として位置づけています。

学校としては、応援すべき部を野球に限るものではありませんが、多人数での応援のしやすさ、競技としてのわかりやすさ、応援の一般性から、これを継続しています。生徒達の楽しそうな姿からも、その一体感が帰属意識につながるものと期待するものです。

- ・ 学力の高い生徒も低い生徒も同じ授業をするのではなく、学力の合わせたクラスを作り、その子供たちに合ったレベルで授業をしてほしい。頭の良い子がもっともっと学力が伸びるように、特進クラス的なものを作ってみてはどうでしょうか。(保護者)

習熟度別学級編成により特定のクラスに特定の授業を実施することについては、大きく学力差のある学校で有効な場合がありますが、現在のところ学校では一斉の授業や課外を基軸にして、さらに高度な学習をしたい生徒に対しては個別に対応することとしております。

なお、1・2年生については、県の進学事業の「難関大講座」「超難関大講座」に、それぞれの基準以上の生徒は参加しています。

学校としましては、全生徒のそれぞれの実情に応じた学習に対する意欲の喚起、より高度な学習に向かう力の涵養を命題として取り組んでまいります。